

4. 第二年次研究のまとめ（反省と次年度の見通し）

- ようやく「自己啓発を促す校内研修のあり方・すすめ方」の試案がまとまった。予備調査、そして、第一年次の調査研究結果から、現在各校で最も改善充実を図る必要があると思われる11の問題点について、各先生方の自己啓発を促すための意識態勢・組織体制・企画運営はどうあったらよいかに視点をあてた校内研修のあり方・すすめ方試案である。
- 本研究主題を「自己啓発を促す校内研修のあり方・すすめ方」とした。それは、県下各校では現在どの学校でも主題研究をしているが、各校の個々の先生方が、課題意識や必要感を自覚し、協働態勢の中でやりがいを感じ、意欲的に推進しない限り所期の目的は達成できないのではないか。校内研修の成果をあげる最も中核となる推進上の配慮は、各先生方の自己啓発をどう図っていくかにあると考えたからである。
- そこで本試案内容では、自己啓発を促す要素として、ア. 個人のニーズを生かすこと、イ. 研修課題を生かすこと、ウ. 研修意欲をつくること、エ. 推進の到達目標を明らかにすること、オ. 活動の内容と方法を明らかにすること、カ. 推進過程を明確にすること、キ. 時間を確保すること、ク. 協働態勢をつくること、ケ. リーダーシップを発揮すること、コ. 資料の活用を工夫すること、サ. 形成的評価・総括的評価をしながら進めること、シ. 次回や次年度に成果を生かすこと等を取り上げ、各校の校内研修の推進過程（計画の段階－実施の段階－評価の段階）で、どのような内容・方法で実践していけばよいかを考えてみたのである。
- 具体的に各試案には、問題点と課題が述べられ、そのことに対する改善の方向と改善の具体策をあげ、配慮事項として、どんな手順・内容・方法ですすめていったらよいか、例示しながらまとめられている。各校においては、まず、「課題」にあげられている内容を自校の現状実態と比較検討していただきたい。そして、自校

で現在必要と思われるものを取りあげ、ご活用願えればと思う。活用においては〈解説〉を読んでいただきたい。解説では、各項目の作成意図やねらうところ、そして活用のしかた等が述べられている。各校現場ですぐに使用できるように配慮したつもりであるがどうであろうか。

- さてこの試案はまだ完成したものではない。次年度は研究協力校（小学校2，中学校2，高等学校1）で実際に使用していただき、実践報告を集約吟味しながら、より現場的に修正していく計画である。その過程でまた新たな自己啓発を促す視点が生まれ、あり方・すすめ方が必要になるだろうと考えている。本年度は、当学校経営部試案をそのまま掲載してみた。従って、「自己啓発を促す校内研修のあり方・すすめ方」案として、問題点も多々あると思う。各位からのご批正、ご意見をもとに、よりよいものにつくりあげていこうと考えているのでご指導をよろしく願いたい。

〈学校経営部プロジェクト研究メンバー〉

近藤 博之
三津間安宏
鹿島 清
小島 長三
吉田 正夫
斎藤 洋一
菅野 由信

- ・ 本田 孝
- ・ 林 功

・ 印は前任者